



学生の「学修成果」と「学修過程」、 「学修機会」および「学修充実感」の関係

1. はじめに

立命館大学では、学生の皆さんが、入学から卒業までの本学での学び（【学修過程】、【学修機会】、【学修成果】および【学修充実感】）を振り返る機会として「学びと成長調査」を実施しています。学生の皆さんには、入学から卒業までの間に計5回にわたって同調査に回答いただいておりますが、その回答データから得られる情報量は非常に多く、教育の質改善のために本学の各所で活用されています。

さて、この「学びと成長レポート」は、同調査における回答データをマクロな視点で分析し、本学学生の皆さんの学びの状況を可視化しフィードバックすることを目的としています。今回は、同調査におけるQ2の一連の【学修成果】が、その他の要素（【学修過程】、【学修機会】および【学修充実感】）からどのような影響を受けているかを明らかにしましたので、その結果を報告します。

2. 指標の要約分析に用いたデータと分析の方法

分析には、2023年度春学期に実施した「学びと成長調査（在学生調査）」と、2022年度12月～3月にかけて3月に卒業を控えた学生の皆さんを対象に実施した「学びと成長調査（卒業予定者調査）」で得られた2～5回生の回答（ $N = 12,195$ ）を用いました。前述のとおり、今回は【学修成果】と、【学修過程】、【学修機会】および【学修充実感】に注目するので、同調査のQ2、Q3、Q5、Q6およびQ7に対する回答を使用しました（別表を参照）。

分析の流れは以下の通りです。まず、各設問に含まれる指標の数が多い（例えば、Q2には24の指標が存在する）ため、「因子分析」および「主成分分析」と呼ばれる方法を用いて指標を要約しました。次に、「共分散構造分析」と呼ばれる方法を用いて、各指標が互いにどのような影響を及ぼし合っているかを可視化しました。

3. 指標の要約

はじめに、設問ごとに、質問項目に共通して影響を与える背景要因を、因子分析で同定しました。その結果、【学修成果】(Q2)の24項目は「概念力」、「情報力」、「対応力」、「専門力」、「理数力」および「国際力」の6因子に、【学修過程】(Q3)の10項目は「主体的学習」、「勤勉的学習」および「協働的学習」の3因子に、【学修機会】(Q5)の10項目は「授業の質」と「双方向性」の2因子にそれぞれ分けられました。また、【学修充実感】(Q6・7)は正課に関する2項目が1つにまとめられました。

続いて、6因子の【学修成果】、3因子の【学修過程】、2因子の【学修機会】を、主成分分析で指標の要約を行いました。その結果、いずれも1つの主成分にまとめられました。

【学修成果】：大学での学びによってどのような力が身についたか。

【学修過程】：大学での学びにどのように取り組んでいるか。

【学修機会】：大学でどのような授業を経験したか。

【学修充実感】：大学での学びと成長にどの程度満足し、意欲的か。

4. モデルの検証

上記で要約した4つの指標(3つの主成分と1つの因子)を用いて、以下の流れに沿って各指標が互いにどのような影響を及ぼし合っているかを可視化しました。

ステップ1 はじめに、「より良い授業を受けることで、学びの力が身につく」という【学修機会】の直接効果について検証しました。その結果、【学修機会】から【学修成果】への直接パスの推定値は.364でした。したがって、直接効果が確認されました。

直接パス：【学修機会】→【学修成果】.364

ステップ2 つぎに、「より良い授業の経験は、学びに取り組む姿勢を向上させることで、結果として学びの成果を高める」という【学修過程】の媒介効果について検証しました。具体的には、【学修過程】を媒介する間接パスを調べます。結果は、【学修機会】から【学修過程】へのパスの推定値は.356、【学修過程】から【学修成果】へのパスの推定値は.588でした。したがって、【学修過程】の媒介効果が確認されました。

間接パス①：【学修機会】→【学修過程】.356

間接パス②：【学修過程】→【学修成果】.588

さらに、【学修過程】が媒介することで、【学修機会】から【学修成果】への直接パスは、.364から.151へと大きく減少しました。この結果は、【学修過程】の媒介効果を示しています。すなわち、「より良い授業の経験は、学びへの取り組み姿勢に良い影響を与えることで、結果として学修成果を高める」ということです。

直接パス：【学修機会】→【学修成果】 媒介前.364→媒介後.151

ステップ3 最後に、「大学での学びが充実していると感じる学生とそうでない学生で、学修成果に対する学修機会の効果は異なる」という【学修充実感】の調整効果について検証しました。具体的には、【学

【学修実感】の高い学生（高群）と低い学生（低群）で、ステップ2と同じ3つのパスの推定値を比較します。結果は、間接パスはどちらも高群の方が高いのに対し（①低群 .316 < 高群 .396；②低群 .550 < 高群 .626）、媒介後の直接パスは低群の方が高くなりました（低群 .365 → .199；高群 .364 → .104）。すなわち、立命館大学生は「より良い授業を受ける中で、学びに積極的に取り組むようになり、その結果、さまざまな学びの力を伸ばしている。その傾向は、大学での学びに満足し意欲的な学生ほど顕著である」ということです（図1）。

間接パス①：【学修機会】 → 【学修過程】 低群 .316 < 高群 .396
 間接パス②：【学修過程】 → 【学修成果】 低群 .550 < 高群 .626
 直接パス：【学修機会】 → 【学修成果】 低群 .365 → .199；高群 .364 → .104

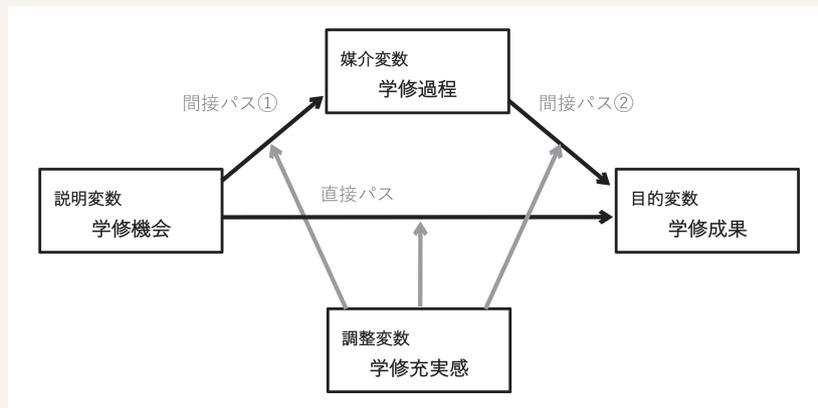


図1 調整効果を加味した「学修機会」「学修過程」と「学修成果」の関係

5. まとめ

学生のみなさんの学びと成長（【学修成果】）にとって、本学が質の高い授業（【学修機会】）を提供することが何より重要であることが改めて可視化されました。ただし、大学での学びは「教える人」と「教わる人」の相互作用で作りに上げていくものです。分析結果からも、学生の皆さんが学びにどれだけ積極的に取り組むか（【学修過程】）が、学びの成果（【学修成果】）に重要な役割を果たしていることが確認されました。ですから、自らの学びと成長のために、「勤勉」的で「協働」的に授業に参加し、学んだことを他の科目や自分の将来にどのように活かすかを考えるように心がけてください。また、その際は、行動面だけでなく、心理面でも自らの学びに意欲的になることが大切です。そうすれば、学びの成果がより一層高まることが期待できるでしょう。

学びの中で身につく力はさまざまです。そのうち、物事の本質を捉える「概念力」や、状況に臨機応変に対処する「対応力」は、社会で活躍するために必要なスキルです。また、情報を収集し処理する「情報力」や「理数力」、語学力や国際感覚といった「国際力」、さらに専門性の高い知識を理解する基礎となる「専門力」は、高次の学びを理解するためのリテラシーです。それぞれの学部のカリキュラムマップに示されているように、正課の学びは知識や経験を積み上げていくように設計されています。上記の6つの力は、基礎ゼミやリテラシー入門、情報処理や英語など、主に1・2年生に向けて開講されている科目や、学部ごとの専門科目で培われるものです。立命館大学は、これからもいっそう授業の質を高めていく努力を続けて参ります。学生の皆さんも、積極的に、意欲的に授業に参加し、さまざまな力を身に付けていただけることを期待しています。

以上

別表 「学びと成長調査(在学生調査)」および「学びと成長調査(卒業予定者調査)」のQ2、Q3、Q5、Q6およびQ7の質問内容

Q2	下のそれぞれの文について、現在のあなたにあてはまると思う程度を「1. あてはまらない」～「4. あてはまる」の4段階で選んでください。
1	専門分野の知識や技能が身についている
2	専門分野の知識や技能を活用することができる
3	本国語／母語以外の言語を読み書くことができる
4	本国語／母語以外の言語を聞き話すことができる
5	国際的な視野が身についている
6	自分とは異なる価値観を受け入れることができる
7	うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組むことができる
8	状況に応じた目標を設定できる
9	目標に照らした計画を立てることができる
10	状況に応じて目標や計画を修正することができる
11	筋道を立てて、論理的・批判的に考えることができる
12	図表や数値データから情報を読み解くことができる
13	自分の意見を図表や数値データを用いて表すことができる
14	他者と協力して目標達成に取り組むことができる
15	自分の意見を説得的に他者に伝えることができる
16	他者の意見を受けて自分の意見を柔軟に修正できる
17	書籍や論文を通じて必要な情報を収集できる
18	インターネット等を通じて必要な情報を収集できる
19	コンピュータを用いて文書や発表資料を作成できる
20	ものごとの善悪について自分なりの価値観を持っている
21	自分の経験を振り返り、客観的に分析することができる
22	他者と比較した際の自分の特徴がわかる
23	社会の中で自分が果たそうと思う役割がイメージできる
24	大学で学んだ内容と実社会との関連を説明することができる

Q3	あなたは大学での学びに、普段からどのように取り組んでいますか。あてはまると思う程度を「1. あてはまらない」～「4. あてはまる」の4段階で選んでください。
1	授業の内容を理解するために、勤勉的な態度で授業に臨む
2	授業の内容を理解するために、予習や復習をする
3	計画的に学習する
4	ペアやグループでの活動で自分の意見を言う
5	ペアやグループでの活動で他者の意見を理解しようとする
6	授業外で他の学生と一緒に学ぼうとする
7	授業で興味を持ったことについて、自主的に掘り下げて学習する
8	授業外での経験を授業の内容に結び付けて考える
9	授業外の場面で、授業の内容を応用する
10	自分の将来の目標と授業の内容とを関連付けて考える

Q5	あなたは大学で次のような授業を経験しましたか。 経験の程度を「1. 経験しなかった」～「4. 経験した」の4段階で選んでください。
1	専門分野の知識や技能を学ぶ授業
2	専門分野の知識や技能を活用する機会のある授業
3	自分の意見を他の学生に伝える機会がある授業
4	他の学生の意見を聞く機会がある授業
5	他の学生と一緒に一つの課題に取り組む機会がある授業
6	挙手やウェブシステムを使った教員と学生とのやりとりがある授業
7	実社会と学習内容との関連を考える機会がある授業
8	自分の成長を振り返る機会がある授業
9	授業外の時間に書籍や論文、インターネット等を通じて情報を収集する機会がある授業
10	授業外での学びが促される授業

Q6	あなたは立命館大学における授業等の正課での学びと成長、授業とは直接関わりのない自主的な学習、部活動やサークル活動、ボランティアやインターンシップ等の課外での学びと成長に、それぞれの程度満足していますか。 満足の程度を「1. 満足していない」～「4. 満足している」の4段階で選んでください。
1	立命館大学における正課での学びと成長
2	立命館大学における課外での学びと成長

Q7	あなたは現在、立命館大学での学びに対してどの程度意欲がありますか。 意欲の程度を「1. 意欲がない」～「4. 意欲がある」の4段階で選んでください。
1	立命館大学における正課での学びと成長
2	立命館大学における課外での学びと成長



立命館大学

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

発行日：2024年2月 編集・発行：立命館大学 教学部教学推進課